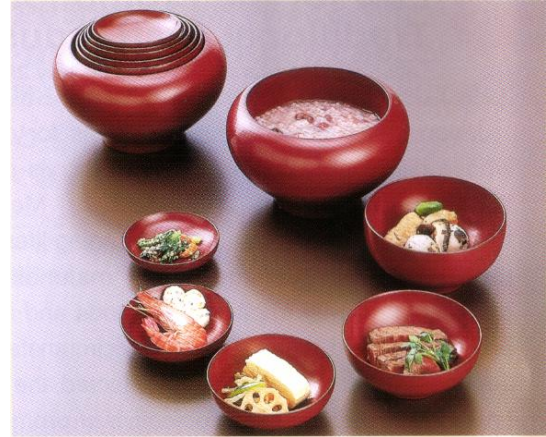


越前漆器

【産地組合】越前漆器協同組合

（産地紹介）

始まりは古く、6世紀にまで遡ると伝えられています。当時の天皇に冠の塗り替えを命じられた漆塗りの職人が、黒塗りの食器を献上したところ、その艶の見事さに深く感銘され、製作を奨励されたのが越前漆器の始まりと伝えられています。



挽物はトチノキ、ミヅメ、ケヤキ等の木を縦方向に立木挽きします。塗りは花塗（はなぬり）という、刷毛の跡やほこりが付かないように仕上げの漆を塗り、そのまま乾燥させる技法が特徴です。堅牢な下地作りに塗り重ねた艶と、優雅な作りには定評があります。別名、河和田塗としても知られています。現在は業務用漆器の産地でも有名で、国内シェア80%以上を持ち、ホテル、レストラン等で使用されております。

（トピック）

- ・ 越前漆器伝統産業会館、通称「うるしの里会館」が、2005年4月にリニューアルオープンしました。歴史的資料や製造工程など、産地の特徴を見ることが出来、また、職人工房では工芸士会による漆器の実演も見ることが出来ます。
- ・ 鯖江市内の小学校では学校給食に越前漆器が使用されております。